

✧ 海外ニュース ✧

フランス 2024年2月4日 Le Parisien

■ 高速道路 A15, 大きな窪みが本格的に修繕される予定

Sur l'A15, le nid-de-poule géant va être réparé pour de bon

フランシリエンス高速道路の維持管理を担当する当局は、道路上の窪みを完全に解消するために工事を行うとしている。パリ方面に向かう高速道路 A15 では 10 番出口の数メートル手前で窪みが発生し、多くの車両に損害を及ぼした。A15 にできた穴は 2 月 5 日から 9 日までの週に修復され、この問題の根本的な解決が図られる。去る 12 月末からイル・ド・フランスの道路局は穴の存在を認識し、その都度、埋め合わせてきたが、雪などの悪天候で道路状況が悪化し、窪みができていたということである。

米国 2024年2月6日 ITS International

■ オクラホマ州にコンデュエント社のキャッシュレス通行料徴収システム

Conduent cashless toll system for Oklahoma

オクラホマ州ターンパイク局は、同州の PlatePay キャッシュレス通行料徴収システムに技術やサービスを提供するためコンデュエント・トランスポートーションを選定した。コンデュエントはスマートモビリティ技術のプロバイダーであるが、車両の登録所有者データを回収し、PikePass トランスポンダーなしで料金所を通過する運転者に請求書を送付可能にする。同局は今年終わりまでに全システムをキャッシュレスに変える予定である。これにより CO₂ 排出量や渋滞を低減しつつドライバーへの利便性や燃費の向上が可能となる、と同社のアップルビー氏は述べている。

米国 2024年2月7日 Construction Dive

■ ドレキセルの研究者らがインフラの亀裂を特定するため AI システムを作成

Drexel researchers create AI system to spot cracks in infrastructure

フィラデルフィア、ドレキセル大学の研究者チームは、道路や橋の亀裂を深刻な問題となる前に警告/モニターできる調査用 AI ベースシステムを作成した。ドレキセルの報道発表によると、同チームは、機械を対象を認識、理解させるコンピュータビジョンと問題のエリアを突き止める深層学習アルゴリズムを組み合わせた機械学習アプローチで外観検査技術の補強を目指している。問題が特定されると、このプロセスでは領域の一連のレーザースキャンが行われ、経時的な亀裂成長の追跡を含め損傷を人が評価、モニターするために使用できる構造物のデジタルツインを作成する。

スペイン 2024年2月11日 EL PAÍS

■ 過去の窪みが多い道路を乗り越え、未来の高速道路へと向かう

Hacia las carreteras del futuro con los baches del pasado

欧州連合は効率的な道路運営と電気自動車高速充電装置について検討していると言われるが、スペインの道路システムは修繕のため 99 億ユーロもの費用赤字を抱えている。未来の高速道路は転換期にあるようだ。大型建設会社と政府の技術革新計画で、運送機関の多様性に加え、新車両に対する電気ガソリンスタンド建設、およびエネルギー効率を増加させることで行う気候変動対策と運転手の前のフロントガラスに表示されるバーチャル信号の設置について、希望をもって語られている。しかし修繕費用の赤字により、自立した黒字財政基準にはほど遠いと指摘されている。

ドイツ 2024年2月13日 Highways Magazine BMDV

■ ドイツ交通省 e モビリティをさらに推進

Das BMDV bringt die Elektromobilität in Deutschland voran

連邦デジタル交通省は、e モビリティへの移行を加速するためさまざまな政策を打ち出している。国民にその

利点を納得してもらうために最も重要なのは、高性能の充電インフラを全国にこまなく設置することである。そのため「充電インフラ マスタープランII」では68の具体的な施策を掲げた。主な内容は、1) ドイツ全土をカバーする充電インフラ網の整備：計10企業が約900カ所で8,000台の超高速充電器を新設・運営（連邦政府の投資額：約19億ユーロ）、2) 地方自治体、企業や個人による公共充電器の設置補助（2023年第二四半期までに4億3,800ユーロを投資）、3) 乗用車・トラック向け家用高速充電器の設置補助（企業が従業員駐車場等に設置するもの。助成金総額：4億ユーロ程度）。

イタリア 2024年2月14日 Autostrade per l'Italia

■ アウトストラデ・イタリア社、通行可能となった高速道路の一区間で初めて自動運転車両の実験を実施

AUTOSTRADAE PER L'ITALIA : PROSEGUE LA SPERIMENTAZIONE DELLA GUIDA AUTONOMA, PER LA PRIMA VOLTA SU UN TRATTO AUTOSTRADALE APERTO AL TRAFFICO

2023年7月に自動運転車両の最初の道路実験がA26で行われ、トンネルのない区間を20km走行した。去る10月末にはさらに30kmの距離で実験が行われ、バルセシア・トンネルを通過した。実験は施行基準に従い、最大限の安全を確保して行われた。この実験では、車両がいかに正確に位置を特定できるかを知るのに有効であり、全地球航法衛星システム（GNSS）のカバー範囲、および縦横の信号発信を確認することができた。道路上の工事現場などの障害物が目に入る前に、そのような危険が存在することを事前に車両に知らせる技術が試験されたのである。

米国 2024年2月14日 elEconomista

■ インドラ社、米国ノースカロライナ州の高速道路でAIを利用予定

Indra aplicará su Inteligencia Artificial en las autopistas de Carolina del Norte

米国のI-485は、スペインのインドラ社が運営するバージニア州とワシントンD.C.を結ぶ高速道路である。この高速道路で動的通行料金徴収所を設置することで、AI技術がより一層活用されることになる。通行料金は車両交通の量や強度によって調整され、自動車が速度を減速することなく、通行料金が支払われるシステムである。今後5年間はノースカロライナ州高速道路管理運営局との契約によりシステムの運営をインドラ社が行い、AI技術を導入し、車の流れを確保する計画である。その他に、渋滞の軽減や大気汚染を解消し、交通料金の徴収側と道路利用者にとって便利な道路を実現させる。インドラ社にとって今後の入札受注に有利に働くであろう。

英国 2024年2月16日 Highways Magazine

■ ロボット犬が地盤調査を追い込む

Robotic dog used to hunt down geotechnical surveys

ボストン・ダイナミクス社の自律ロボット犬「スポット」はサウス・ウェストの各地で地盤調査を行うために使用されている。この4本脚のロボットは、カメラとLeica LiDARトラッカーを使用しており、サマセットのM5モーターウェイでの初トライアルに採用された。このトライアルはBAM RitchiesやAECOMとともにNational Highwaysによって実施されている。この犬の目線は、急斜面の土手や自然の坂道、植物で見えにくい坂道、排水溝、橋やその他構造物の下を含む届きにくい場所や地形において、遠隔でデータを獲得できるよう採用されている。

イタリア 2024年2月18日 Il Sole 24 ore

■ イタリアの電気自動車の普及は、なぜ欧州で後れを取っているのか？

Auto elettrica, perché l'Italia è agli ultimi posti in Europa

欧州全体の電気自動車普及率は14%であるのに対し、イタリアの電気自動車普及率は4%である。しかし昨年2023年には、商業電気自動車の普及は45%の増加となっており、一般に使用できる電気自動車充電所数は38%上昇した。電気自動車充電所のようにしっかりと伸びている部門もあれば、CO₂排出量がゼロである自動車の販売数はやや伸び悩んでいる。デジタル化とAI技術の普及で、持続可能な交通環境は着実に進歩している。

米国 2024年2月19日 Civil + Structural Engineer magazine

■ 財源が今見過ごされがちな種類のプロジェクトに動いている

Funding is now flowing for a type of project that could be overlooked

連邦道路管理局は12月、17の州における19の野生生物横断プロジェクトへの1億1,000万ドルの助成金を発表した。この財源は現在、野生生物と車の衝突の数を減らすよう設計されたプロジェクトを支援すべく策定された新たな実験プロジェクトを通して利用可能となっている。あるプロジェクトでは、5つの高架下道路と1つの高架道路の建設やハイウェイの30マイル区間沿いのフェンス改修が含まれている。このような仕事の取組みに関心を持った企業は、地元の州の交通局に連絡を取り、次回の野生生物横断プロジェクトについて問い合わせるとよいだろう。

フランス 2024年2月19日 APRR

■ レーンでカーシェアリングの将来が順風満帆に！

Lane, le covoiturage qui a le vent en poupe !

月曜日から金曜日のラッシュアワーの1人乗り車両を減らすことで、大気汚染を削減し、高速道路A43をスムーズに走らせ、リヨン市への入り口を通過する車両を少なくするのが、カーシェアリングのレーン(Lane)のサービス目標である。運転者は自分以外に乗車した人につき、2ユーロが補償される。現在、2本の高速道路でレーンカーシェアリングシステムが稼働しているが、2022年までに1万9,000本の道路、2023年には3万本の道路につき実施され、他の路線も検討中であり、中長期的にこのシステムが適用される見通しである。

スペイン 2024年2月19日 Mitma

■ 運輸省は790万ユーロで入札契約を行い、ビッグデータのツールを通して、国営道路網における交通データを取得し、情報処理を実施する

Transportes licita por 7,9 millones de euros un contrato para obtener y tratar datos de movilidad en la Red de Carreteras del Estado mediante herramientas Big Data

運輸および持続可能な交通省は、790万ユーロ(税込)でサービス契約の入札を行った。この契約により、ビッグデータのツールを使って道路情報の取得と処理を行い、国営道路網の運営改善を行うものである。フローティング・カー・データのように新しい情報源を利用し、その情報にはコネクテッド自動車、携帯電話、およびビッグデータのプラットフォームの創出が含まれる。このようにして、国営道路網の運営について情報処理と改善を行う。

ドイツ 2024年2月22日 Süddeutsche Zeitung

■ 高速道路予算1億9,000万ユーロ：橋梁に重点(ヘッセン州)

Brücken im Mittelpunkt : 190 Millionen Euro für Autobahnen

高速道路の維持管理・運営を担うアウトバーン GmbHの西部支社によると、2024年にはヘッセン州内高速道路網の拡張・改修工事に約1億9,000万ユーロが投入される。特に橋梁の維持と修復に注力する。ラインラント・プファルツ、ザールラント両州を含む同社管轄地域内では、高速道路の約60%が1960~70年代に建設されたものだという。主な工事予定はA66号線のザルツバッハタール橋建替え(2025年6月竣工予定)、A66号線のリーデルヴァルトトンネル建設(同2033年)、リュッセルスハイムジャンクションA60/A67号線接続ランプ新設(同2026年末)等。ヘッセン州事業者組合連合会(VhU)はこれらの建設計画を手堅いと評価しつつも、計画策定と認可手続きの迅速化を望むとコメントした。

英国 2024年2月22日 Traffic Technology Today

■ 英国が運転中の携帯使用を検知するため法執行を展開

England extends use of enforcement to detect at-wheel mobile use

英国のNational Highwaysは、運転中にシートベルトを着用していない、あるいは携帯電話を使用している運転者を自動的に検知する新たなモバイル技術の試行を、関係する英国各地の警官により展開している。10の

警察部隊が、車両やトレーラーに複数のカメラを搭載しドライバーや同乗者の違反行為を撮影する新たなキットを用いることになる。新タイプの技術により通過する運転者の映像が撮影されるが、画像は人工知能を用いて処理され、運転者が手持ちの携帯電話を使用していた、あるいはシートベルトをしていなかった可能性がないかが解析される。

イタリア 2024年2月27日 Anas SpA

■ フレジュス・トンネル：セルネックス、FS グループ（アナス社と RFI 社）、アクセンチュア社およびオープン・ファイバー社が共同でアルプス山脈を走る道路に 5G 技術を導入する

TUNNEL DEL FRÉJUS : CELLNEX, GRUPPO FS (Anas e RFI), ACCENTURE E OPEN FIBER INSIEME PER PORTARE IL 5G SOTTO LE ALPI

セルネックス・イタリアとセルネックス・フランスは、FS グループ（アナス社と RFI 社）、またアクセンチュア社とオープン・ファイバー社と共に、企業庁とメード・イン・イタリア庁（MIMIT 社）の賛同を得て、ピエモンテ地域をカバーして、そこに度量学研究国立院（INRiM）の協力も得て、欧州における 5G インフラの発展に貢献することが期待されている。その際に鉄道と道路という 2 つのフレジュス・トンネルにおいて、5G モバイル技術でイタリアとフランスを結ぶ一定の領域をカバーすることが目的となる。

オーストラリア 2024年2月27日 Roads & Infrastructure

■ フルトン・ホーガン・イーギス社に M6 モーターウェイの 30 年契約を発注

Fulton Hogan Egis awarded 30 year M6 Motorway contract

フルトン・ホーガン・イーギス社は、ニューサウスウェールズ州の M6 ステージ 1 モーターウェイに対し資産管理業務を行う契約を授与された。M6 モーターウェイ業務プログラムはシドニー南部への連結改善を目指し提案された多車線道路リンクである。これによりシドニー南部からのミッシングリンクが広域のシドニーモーターウェイネットワークへ解放され、移動をより容易、高速、安全にする。同社は契約の一環として M6 ステージ 1 モーターウェイ（M8 モーターウェイをプレジデント・アベニューへ結ぶ約 4 km の双設トンネルを含む）のあらゆる側面を管理することになる。

英国 2024年2月28日 Highways Magazine

■ 高度移動式道路閉鎖によって高速道路上でがらんとした作業環境の「夢」が実現

EMCC realises 'dream' of sterile work environment on fast roads

このシステムでは、実際に道路を閉鎖することなく、交通に入り込み、速度を落として移動する道路「閉鎖」を生み出す護送車両を使用する。ハイウェイメンテナンス護送車両は、事故の 2 分前から 2 分後の映像を撮影する CCTV カメラを含む侵入検出システムを備えている。これは 2022 年からトライアルを受けており、現在認められた業界技術であると National Highways 国家安全管理レビューで承認されている。この技術は一時的交通管理レイアウトの設置、メンテナンス、切り換え、撤去や機器の事前セッティングに使用可能である。

ドイツ 2024年2月29日 Verkehrs Rundschau

■ シュレスヴィヒ・ホルシュタイン州 e ハイウェイプロジェクトの中間評価

Schleswig-Holstein : E-Highway-Projekt zieht Zwischenbilanz

北ドイツのシュレスヴィヒ・ホルシュタイン州では、2024 年末まで連邦経済・気候保護省の助成を受けた架線式トラック実験プロジェクトが行われている。リュウベックとラインフェルト間で行われているこの実験の第一回中間評価によれば、現在の電力ミックスで電力走行すると CO₂ 排出量を約半分削減できるという。グリーン電力の比率が増えれば排出はさらに抑えられる。一方、プロジェクトの経済性に大きな疑問を持つ同州納税者連盟は実験の中止を求めている。同連盟は、運送トラックが欧州全域を往来する以上は広範囲にわたって高速道路網に架線を設置する必要があるが、これは費用がかかりすぎて現実的ではない、と主張している。